第22号　（通巻第5号第2号）
1985年7月1日発行

乙貞

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397
〒524-02
守山市服部町2250番地

梅雨明け宣言を待ちわびる時節、今年も各地から水害のニュースを耳にし、自然の脅威を感じさせられました。しかし、その反面、草木は緑を増し、稲はぐんぐん成育し、自然の恩恵も充分受けていることも感じさせられます。

さて、この時節、発掘調査の方も〝水害〟を受け、残念なことに遺構に水がたまり、調査が滞っているのが現状です。しかし、〝雨にも待けず〟排水作業に頑張っています。

◎◎◎　発掘調査だより　◎◎◎

守山市では、現在、吉身西遺跡、杉江遺跡、横江遺跡で調査を行なっています。その内、横江遺跡につきましては前号の「乙貞」で調査だよりをお知らせしましたが、他の遺跡については5月以降調査を開始しましたので、この「乙貞」で調査だよりをお知らせします。（吉身西遺跡は調査を2ケ所で行なっており、（その1）に

吉身西遺跡　調査地・位置図

つきましては、調査は終了しています。）

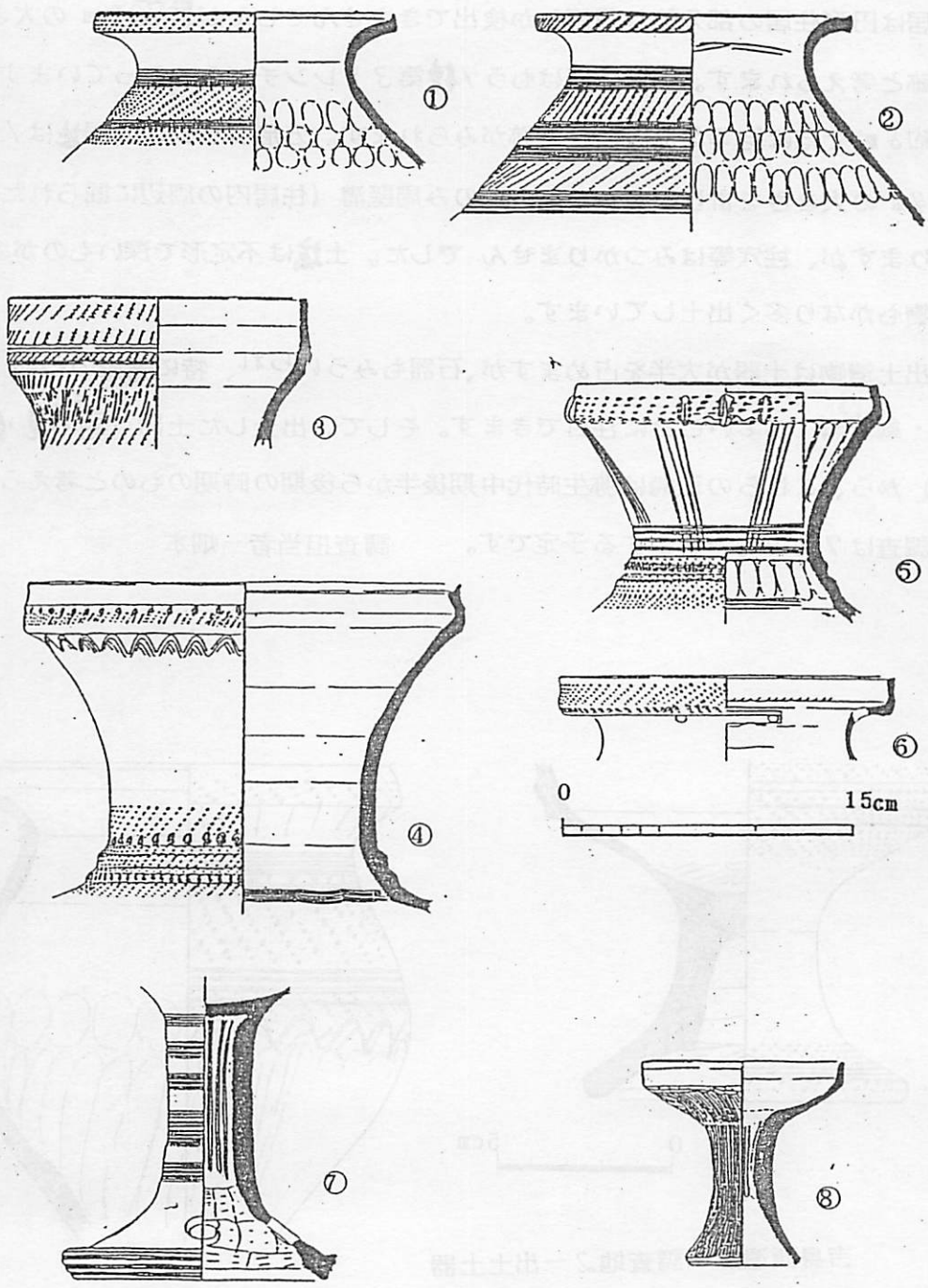
※※　吉身西遺跡ー調査地1　※※

昭和60年5月中旬に守山町字上横枕で約500㎡の調査を実施した。約400㎡を発掘し円形竪穴住居2棟、方形竪穴2棟、土坑5基を確認することができた。この調査は弥生時代中期の終末の集落であり、これまでにない新たな資料を得ることができた。これは中期末の住居が円形と方形プランの両者を併存しており、円形の周囲に長方形がとりまいている状況と、出土した土器に新たな内容が含まれているということである。遺構の図は他の図を参考にしてもらって、ここでは土器の説明を行なうことにする。長方形の竪穴住居（SH-4）から出土した一括の資料をあつかう。壺では広口壺として、①・②があり、両者とも外面に平行文と列点文を多用するもの、③は口縁部の立ち上がるもので外面を列点と凹線文で飾る。④・⑤は受口状の長頸壺で頸部に二段の貼りつけ突帯をつけて列点文で飾る。⑥は受口状口縁の壺で口縁外面の列点は二段とする。高坏は⑦・⑧があり、脚筒部を横描平行文で飾る⑦と、やや新しい特長をもつ⑧がある。

これら8点の土器は市内では初例であり、近江の中でも栗東町下鈎遺跡をみるだけで、中期から後期への推移をみる上で貴重である。今、あえて、その位置づけをすれば、消費量が少ないと思われる壺や高坏は中期の様相を色濃く残しているが、煮沸に使って破損が多く新しく作る必要のある甕はV様式（後期）の要素を備えているわけで、後期を直前に控えたものと言え、先進地では後期社会に入っているという状況を考えるこが可能なのだが、ここではあえて最古の後期土器と呼んでおこう。　調査担当者ー山崎

◎◎　吉身西遺跡ー調査地2　◎◎

5月21日より中央マートの東側、守山町字上横枕で約1283㎡の発掘調査を行なっています。調査地を進入路と宅地造成されるところを2分した3ケ所のトレンチを設定しました。検出した遺構は大きく竪穴住居と土坑、

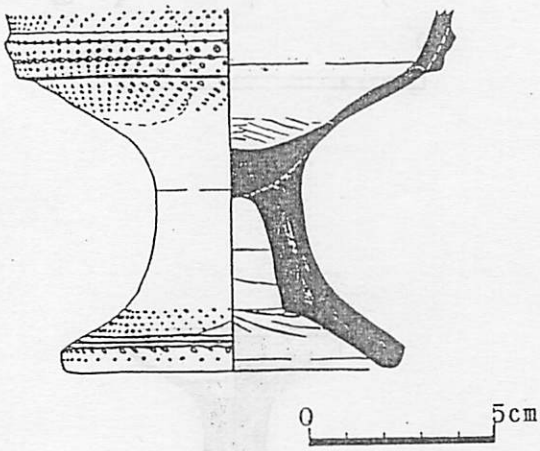


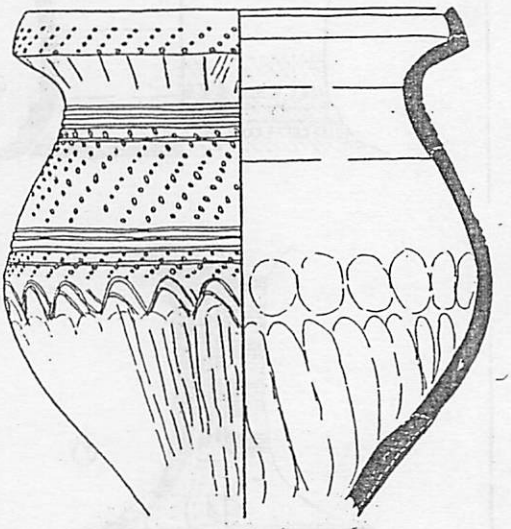
吉身西遺跡一調査地／一　穴住居（SH-4）出土土器実測図

柱穴に分けられます。竪穴住居は9棟検出しています。第1トレンチで検出した住居は円形住居の部分的な円周しか検出できませんでしたが、直径70数m の大きな建物跡と考えられます。円形住居はもう1棟第3トレンチでみつかっています。直径約8mでほぼ均等な位置に柱穴跡がみられます。方形プランの住居址は1辺3～4m の大きさを計ります。SH－2のみ周壁溝（住居内の周辺に掘られた溝）が残りますが、柱穴等はみつかりません でした。土坑は不定形で深いものが多く、遺物もかなり多く出土しています。

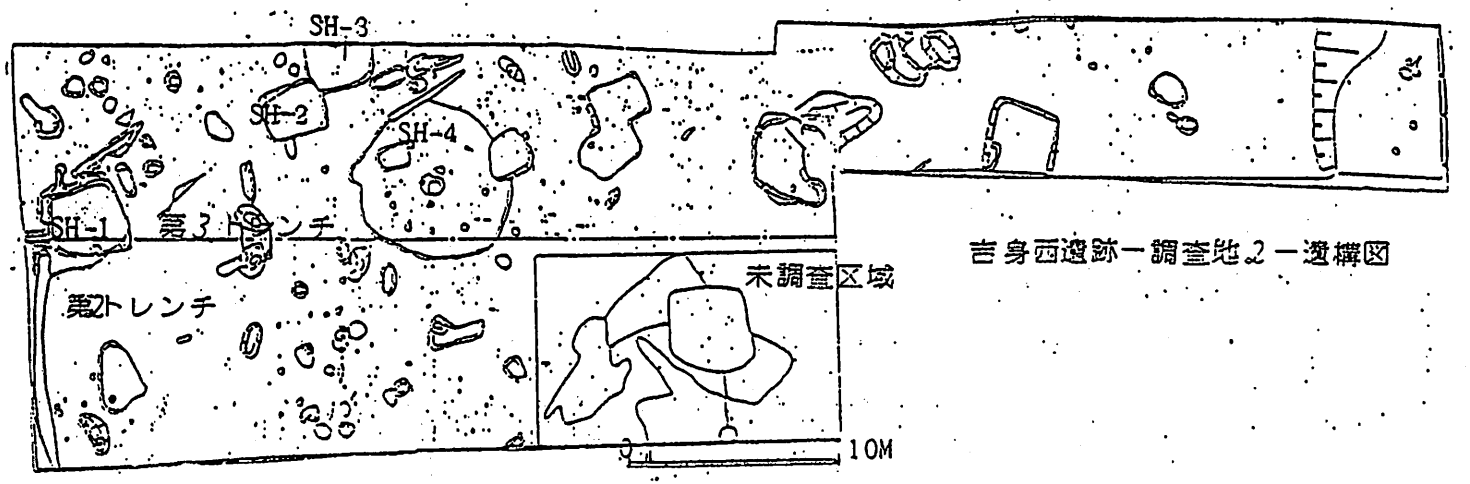
出土遺物は土器が大半を占めますが、石器もみうけられ、特に磨製の石器（斧1点・剣1点）が多いことに注目できます。そして、出土した土器（壺・甕・鉢など）から、これらの遺構は弥生時代中期後半から後期の時期のものと考えられます。

調査は7月中旬で終了する予定です。　　調査担当者ー畑本



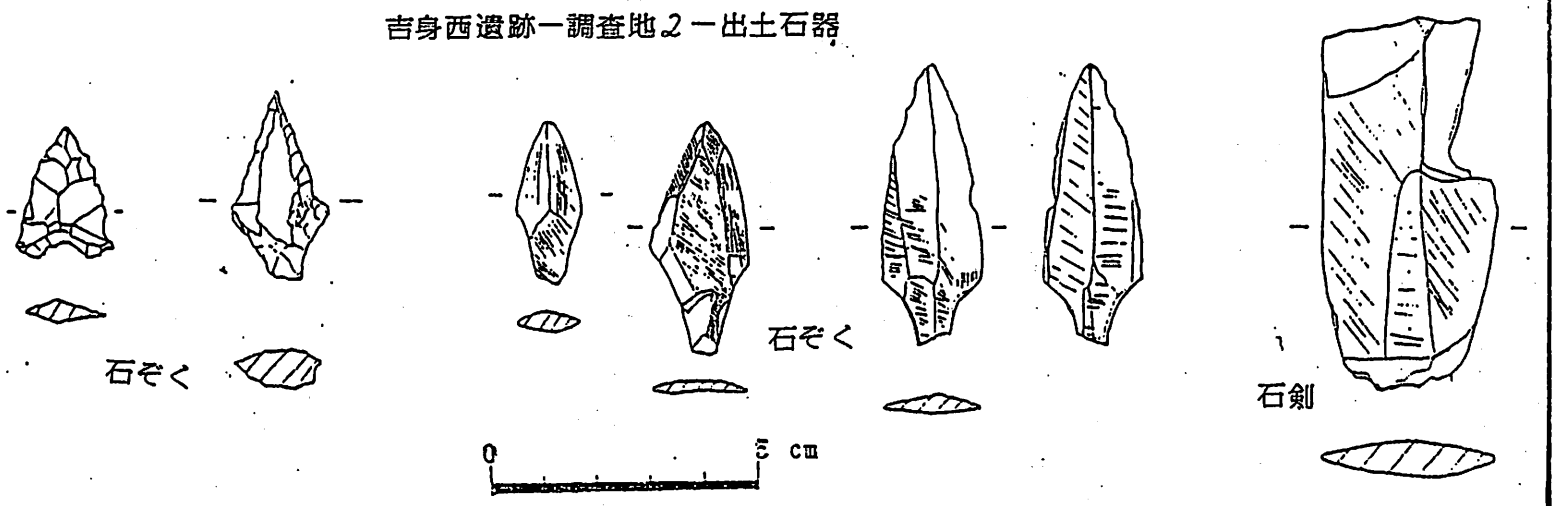


吉身西遺跡ー調査地2ー出土土器

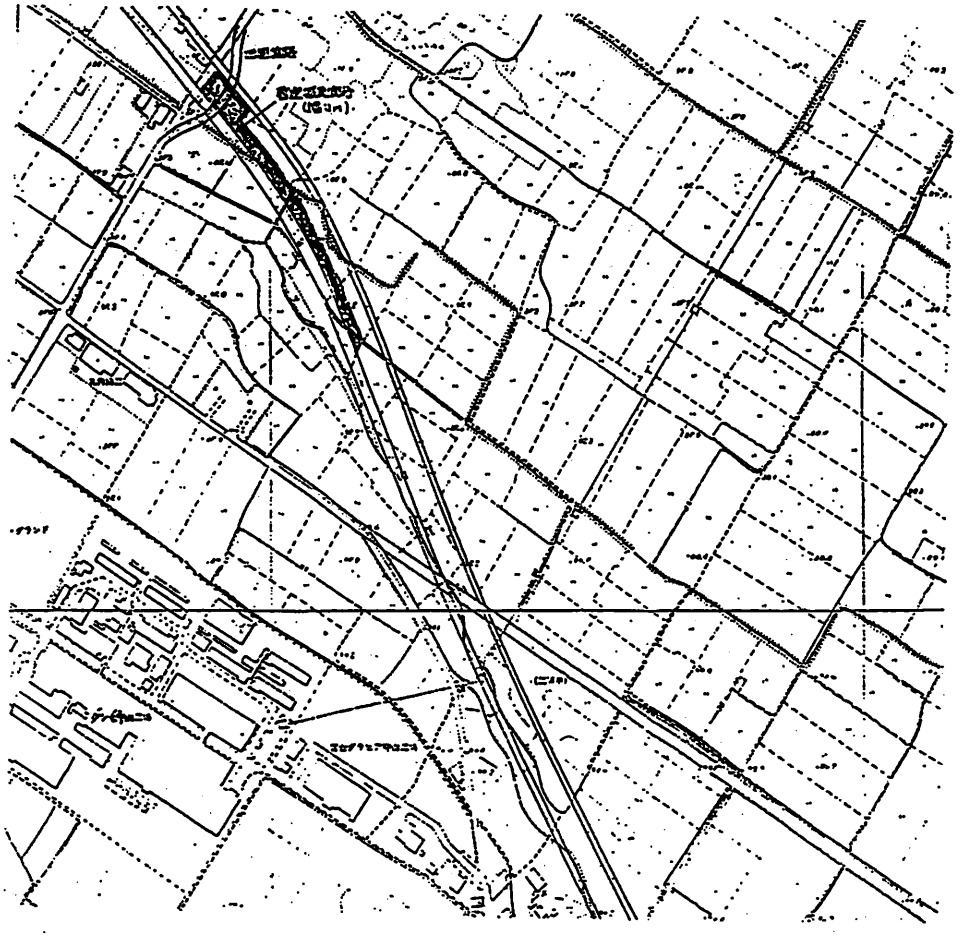


吉身西遺跡ー調査地2ー遺構図

吉身西遺跡ー調査地2ー出土石器



△△△△△ 杉江遺跡発掘調査開始！ △△△△△



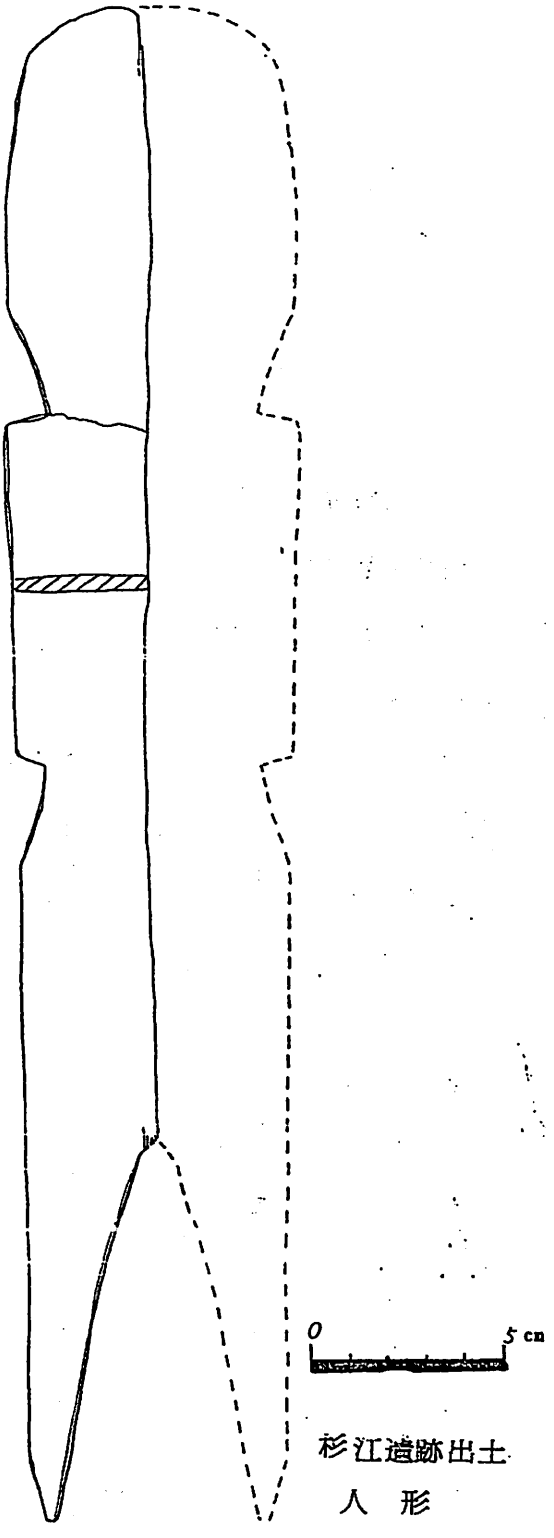
杉江遺跡ー調査地ー位置図

6月初旬より、欲賀町地先において、杉江遺跡発掘調査を開始しております。調査は新守山川改修工事に係るもので、一昨年より県教委により関連遺跡の調査が行なわれていますが、一層の進渉を図るため、市教委でも調査を実施することになった訳です。市教委が調査する地域は、位置図のとおり、県道彦根ー近江八幡ー大津線（浜街道）より南側で、この地域は、中世の集落跡として周知される杉江遺跡の包蔵範囲です。（県教委の調査は道路より北側で実施されています。）

さて、進渉状況ですが、あいにく梅雨の時期にあたり、作業は停滞しており、

多くの成果は挙っておりません。唯、道路際の調査地から、旧河道を検出し、多くの遺物が出土しています。河川改修が示すとおり、現在の小河川では多量の雨水などの水ハケは充分でなく、湿潤な地域であることや、野洲川主流が過去、守山市と草津市の境界を流れる堺川や他の河川に推移していることなどから、自然流路の存在は強く想定されていたものです。

この旧河道からの出土遺物は、古墳時代中期の土師器の甕をはじめ須恵器の坏、甕、施釉陶器、磁器、黒色土器の椀、土師器の皿などが見られる他、人形（ひとがた）や下駄などの木製品も出土して、古墳時代から中世にかかる時代幅の広いものとなっていますが、出土数の大半が中世、鎌倉時代に比定されるものであり、周辺に杉江遺跡の性格そのものである中世集落の存在が大きくクローズアップ



杉江遺跡出土
人　形

されたと言え、今後の調査の進展に期待がよせられます。

特別展そしてこの「乙貞」紙上で逐一調査の状況等 を報告していきたいと思います。　　調査担当者ー岩崎

埋文センター友の会だより

「友の会」では、本年度第2回の学習会を、7月6日（土）に行ないました。今回の内容は、「施設見学」で、県立埋蔵文化財セン ターと、それに近接する近代美術館を見学しました。

県立埋蔵文化財センターでは、ロビ ーに展示してあります土器やハニワなどを見、また木器や鉄器の保存処理の方法などを見学しました。

近代美術館においては、「親子でみるフランス名画展」を見学しました。梅雨空にもかかわらず、多くの方の参加があり、文化財に親しんでいただけたかと思います。

次回は、8月の下旬ごろに、市内の発掘調査をしているところを実際に見て、文化財に接していただこうと「現場説明会」を企画しております。ふるって御参加下さい。

特　別　展

春季特別展　終る！

去る4月28日～5月6日の間、「弥生・古墳時代の守山」というテーマで特別展を開催しましたところ、多くの見学者がありました。

次回の特別展は、下記のとうり予定しております。

開催期間　8月11日（日）～8月18日（日）

開催テーマ「埋蔵文化財調査速報展」

展示の内容は、昭和60年度調査及び整理作業を行なう遺跡の出土品、成果の報告をする予定です。　是非、御見学下さい！